

“目の前の石ころは誰がのける？・・・”

皆さんは、目の前に石ころがあるとどうしますか？きっと皆さんのことから、「自分でのけます」という人が多いと思います。しかし、最近は年齢に関係なく、自分でのけることができない、自分でのけようとしなない人が増えています。その理由の一つは、周りの人が先回りしすぎて、全ての石ころをきれいにのけてしまうからです。そういう人は、いつもきれいに整備された安全な道しか歩いたことがないので、道路に石が転がっているという場面に遭遇したことがないのです。では、そんな人が初めて道路に転がっている石ころに遭遇したらどうなるのでしょうか？「何だこれは？」と言って石ころを呆然と眺めているか、よくわからないからそのまま歩いて、その石ころに躓いて転ぶ・・・とかでしょうか。そして、その人は、おそらく、「前に行けないから誰がのけて」とか「誰だよ、こんなもの置いたのは・・・」とか言って誰かに頼るか、誰かの責任にするでしょう。

赤ん坊の頃、ようやく歩き始めたころは、子供の歩く方向にあるおもちゃ等障害物を親や保護者の方があらかじめのけておいて、子供が躓いて転ばないようにしていました。たぶん幼稚園、小学校の低学年頃までは、周りの人がほとんどの障害物をのけてくれていたのではないのでしょうか？しかし、小学校の中学年以降や、まして中学校に入学してからはどうでしょうか？まだ、周りの人が先回りして、躓かないように障害物をのけてもらっている人、いませんか？残念ながら、大人と言われている年齢になっている人でもそういう人は一定数います。小さい頃は転んでも体が小さく、体重も軽いので多少の怪我をしても、大怪我はしません。実際、小さな子供は転んでも楽しいことがあるとすぐに起きて走っていきます。しかし、大人になってから転ぶとどうでしょう。体も大きくなっているし、体重もそこそこあります。しかも、初めて転んだとしたら・・・体の怪我はもちろん、きっとショックも大きく、人によっては、心に大きな傷を負ってしまうかもしれません。そうなったら立ち上がって次に向かって進むのは結構、大変で時間がかかります。でも、小さいころから何度か躓いて、転んで痛い思いを経験してきた人ならどうでしょうか。「これぐらいたいしたことないや」、「次頑張ろう」といってすんなりと前に進めると思います。また、目の前にある石ころに躓き、転んだことのある人は、石ころが転がっていたら「危ない、のけよう」とか「石ころを避けて行こう」という判断をしたり、あまりにも大きな石の場合では「一人では無理、誰かに手伝ってもらって石をのけよう」という行動もとれるでしょう。

うちの校訓は『未来貢献』で、それを達成するために“自律”することを目指しています。自分で経験して、失敗して、考えて、試してみる。この繰り返しで、“自律”することにつながり、『未来貢献』に向けて進めるのだと思います。皆さんもこれから進もうとするところに大小さまざまな石ころが転がっていると思います。人に頼ったり、人のせいにするのはなく、失敗して多少怪我をしても、自分で石をのけて進んで欲しいと思っています。